

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもり
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
 - (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 12

DEC. 2009

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【四谷オフィス】
〒160-0008 新宿区三栄町6-12 2F
Tel. 03-5367-1872/FAX 03-5367-1873
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

12月1日は世界エイズデーです

HIV/AIDSへの理解を深め、偏見や差別をなくそうと、1988年世界保健機構が毎年12月1日を世界エイズデーとしました。

世界では、毎日2000人が新たに感染しており、その67%が女性や少女です。貧困・ジェンダーの不正・身近なパートナーによる暴力がこの蔓延をもたらします。これを断ち切るためには、女性がリーダーシップをとって、偏見・恐れ・差別を克服する道を開き、コミュニティを変革することが急務であり、そのためには女性のエンパワーメントが要となっています。

YWCAは、70カ国以上の国々で女性と少女を対象としたAIDS対策に取り組んでいます。(2~3面関連記事掲載)

HIV & AIDSの理解は今の私から



青木理恵子

(京都YWCA会員、特定非営利活動法人CHARM事務局長、大阪市派遣エイズカウンセラー)

も し、あなたがHIVに感染していると分かったら、まず何を考えるでしょうか。これからどうなるのだろうか。仕事は続けられるのか。あとどれくらい生命なのか。他の人に感染させるのか。どうして感染したのだろうか。職場に言うべきか。親に言うべきかなど。

H IVは、Human Immunodeficiency Virus (ヒト免疫不全ウイルス) という名のウイルスです。HIVウイルスが身体に入ると免疫力を低下させていきます。1980年代にはまだウイルスを抑える薬が開発されていなかったため、感染して身体の中でHIVウイルスが増えたと打つ手がなく、多くの人がAIDSを発症して亡くなりました。しかし1996年以降、ウイルスを抑える薬が次々と認可され、感染してもAIDSの発症を抑えられるようになってからは、服薬できる環境にある人にとっては、病気をもちながらも薬でコントロールして生き続けられる病気になるました。英語圏ではHIV陽性者をPWHIV (People with HIV) と呼んでいます。

私 は市民団体のソーシャルワーカーとして地域でPWHIVの支援活動をしています。私たちが関わる人たちの多くは病気になることだけではなく、人々の無理解と誤解からくる偏見と立ち向かわなければならぬ環境に生きています。

PWHIVも他の病気にもなります。歯の治療を受ける、出産をする、精神的な疾患で入院をする、老人施設に入居したい、などの場合にはPWHIVは受け入れられないということを経験することもあります。受け入れ機関は、他の患者や医療者自身への感染を心配しています。HIVは、空気や飛沫で感染はしませんから、医療現場では適切な感染予防対策をとってれば、患者から他の患者・医療者に感染することはありません。誰がどんなウイルスを持っていても感染を予防する方法として「スタンダード・プリコーション」(基本的予防策) は今や世界の医療現場では常識になっていますが、日本の医療現場ではこの対策が遅れているため、とりあえず自分のところにウイルスを持ち込まないように「水際作戦」を取り、PWHIVを拒否するというその場しのぎの対策をとっている訳です。

H IV感染は、体液(血液・膣分泌液・精液・母乳) が他の人の体液と接触した際に感染するので、私たちの生活で最も身近なのは性交渉です。性感染症を予防する正しい方法を身につけることは、感染を予防するために、そして性にまつわる多くの誤解と偏見を取り除くために最も近道です。日本では性の健康が学校教育で十分行われていません。この事実に気づいた若者が自分の周りの人たちに情報を伝えていこうとする取り組みが全国で少しずつ起こってきています。性の健康とは、性器を健康に保つというだけではなく、相手との力関係、自己決定、コミュニケーション、セクシュアリティ、など実に多様な課題と向き合い、考え、話すことによって、タブーから自由になることを意味します。

これらのことが普通に話されることによって、当たり前とされていることを塗り替え、思い込みと誤解を乗り越えて新たな理解を生み出していくことにつながるのではないのでしょうか。HIVへの取り組みは、そんな足元からの自分の認識の確認から始まります。

*参考情報：HIVマップ
<http://www.hiv-map.net/>

イエスに拾っていただく1本の落ち穂として

杉村みどり

ナオミ(快い) などと呼ばないで、マラ(苦い) と呼んで。全能者がわたしをひどい目に遭わせたのです。出て行くときは、満たされていたわたしを主はうつろにして帰らせました。

イスラエルの民がカナンに定住後、社会的混乱と自然災害に襲われ、夫と息子2人を相次いで亡くしたナオミが、長男の妻であったモアブ人ルツと共にベツレヘムに傷心の帰郷をし、出迎えた仲間へ答えた、神への精一杯の抵抗の言葉です。ナオミとルツ、そしてルツと結婚した町の地主ボアズによるこの短い「ルツ記」の物語は、飢饉と死に始まり収穫と赤ちゃんの誕生で幕を閉じます。マタイによる福音書はルツの名前を挙げてダビデの系図に接続させ、イエスに繋げました。ナオミは、生きていく人にも死んだ人にも慈しみを惜しまれない主が、祝福して下さいますようにと祈り、ルツはナオミに忠誠を尽くし、ボアズは共同体のリーダーとして生存の境界線にある女性に十全な配慮を惜しみません。3人のこれらの行為に聖書は、ヘセド(慈しみ・誠実) という概念を示しました。人間が可能な限りのヘセドを尽くす舞台裏で、神のヘセドが働いているという信仰が示されます。

ルツ記の主要モチーフである「落ち穂拾い」は、耕地を持たない困窮者が、収穫時のオリブの実や麦の落ち穂を拾う権利を認められた古代イスラエルの法習慣であり、落ち穂をより多く確保するために農夫は畑の隅々までも刈り尽くしませんでした。

高性能の機械が収穫物を刈り尽くすか大幅廃棄する現代でも、私たちは、落ち穂拾いを日常的に目にします。腰を屈めて大地にこぼれた落ち穂を拾う行為は、記憶の底にある来し方をいねいに内省する営み、エコ生活、紛争地や周縁に追いやられた人々に対するセーフティネット、無用であるといつか疎外してしまつたものに思いを寄せ等々に示されましよう。大地は神のもの、私たちは主イエスに拾っていただく1本の落ち穂。待降節の今日、私たちの痛みを受け留めて十字架への道を歩まれたイエスのヘセドに誘われて、癒しをもたらす行動を取るようにと招かれています。ではないのでしょうか。

(東京YWCA会員)

言葉から行動へ

HIVとAIDSに関するナイロビ 2007行動要綱を受けて

貧困・ジェンダーの不正・身近なパートナーによる暴力がHIVとAIDSの蔓延をもたらしています。これを断ち切るためには、女性がリーダーシップをとってコミュニティを変革することが急務であり、世界YWCAは、HIVとAIDSの問題に積極的に取り組んでいます。

2007年7月世界YWCAは、ナイロビでの世界YWCA総会と並行して、HIVとAIDSにおける女性のリーダーシップをテーマに国際女性サミット(IWS)を開催しました。そこでHIVとAIDSに関する「ナイロビ2007行動要綱」別掲IIを策定し、取り組んできました。この要綱は、世界中の女性や少女の生活に根ざした知識・証言を基に作られ、10の主要項目を明記しています。これに取り組み、女性や少女のHIV感染は劇的に減らすことができるでしょう。

この行動要綱に署名した世界中の女性たちが、その後自分たちが約束した誓いを実行に移しています。今号では、2人の女性と2つのYWCAの取り組みを紹介いたします。

*この稿は世界YWCA機関紙「コモン・コンサーン」138号より抜粋(翻訳協力「コモン・コンサーン」翻訳チーム)

私たちは感染の拡大を

阻止する影響力を

持っている！

スーザン・ブレナン
世界YWCA会長(オーストラリア)



ナイロビ2007行動要綱は、私にとっては、あるHIVポジティブの10代の女性と特別な友情を築くことでした。彼女は、日常的にHIVに対する固定観念を打ち砕こうと努力を続けています。彼女は、学校や医者から差別を受けてきているのですが、このことは、HIVが私たちの社会でいかにオープンにさ

れていないかを示すものです。HIVは、オーストラリアにおいてさえも女性の問題であることがわかりました。彼女と知り合ってから、私は「どのようにしてHIVに感染したか」と尋ねることをやめました。今では私は、YWCAの優先課題について語るべき、若い女性がHIV感染の危機にさらされている

こと、けれどもまた若い女性は感染の拡大を阻止する影響力も持つことを話すようになりました。私は、HIVポジティブの女性たちによる公園でのピクニックや、パワーに満ちた写真展に参加することで、オーストラリアにおけるHIVポジティブの女性たちの主な組織を支援してきました。今では私の親戚の若い人たちは、HIVへの意識を喚起させるようなTシャツ・文房具・書物などを、誕生日のプレゼントにもらいたがるようになりました。私の所属する地域YWCAはコンドームメーカーと提携し、女性をターゲットとする画期的な新ブランドのコンドームを配布することになりました。私も友人や家族に、また世界YWCAの常任委員にもこのコンドームを配りました。

私は、HIVポジティブの女性たちが対等な仲間として受け入れられ、参加し、発言し、リーダーシップを発揮することのできるような安全な場を作ることを、すべてのYWCAに求めます。リーダーシップ活動・研修センター・性教育プログラ

ム・地域におけるそのほかの活動を通して世界中のYWCAができることは、安全な性関係を求める自尊心をすべての女性がもてるようにし、仲間として受け入れ、介護者・孤児・HIVと共に生きる人々への援助を提供することです。HIVへの対応はコミュニティ・地域・国、そして世界における私たちの活動の一部となっています。私は世界YWCA会長として、HIVへの対応を確実にするための私たちの地球規模での取り組みに、改めて全力を尽くします。

ナイロビ2007行動要綱 HIVとAIDS—社会変革をもたらすために取り組むべき10の行動

世界YWCAは2007年7月の国際女性サミット(IWS)で次の10の行動を決定し、全世界で取り組むことを宣言しました。

1. HIVおよびAIDSと闘うため、女性と少女のリーダーシップを養成する。
2. HIVおよびAIDSに感染している女性や直接影響を受けている女性が、HIVとAIDSの問題に関わる意思決定の場に参加できるようにする。
3. ジェンダーの平等、女性と少女の人権を促進する。
4. 女性と少女が身体的・性的・心理的に安全と安心を得られるようにする。
5. すべての女性と少女の性と生殖に関する健康を促進する。
6. 女性と少女に財産所有権や相続権を保障し、教育を受け、確実に経済的安定を得て資源を入手できるようにする。
7. HIVに感染または影響を受けている女性に対する、安全な検査・ケア・治療・支援を保障するサービスを拡大する。
8. 若い女性や子どもの実情に合わせてAIDS対策を見直し、権利を促進する。
9. HIVおよびAIDSの問題を変革するため、若い女性の能力を支えるリソース(人的・経済的資源)を増やすようアドボカシー活動を行う。
10. 社会のあらゆるレベルで女性の参画・エンパワーメント・リーダーシップを養成する。

アオテアロア/ ニュージーラ ンドYWCA

理解を広める —映画上映会

ナイロビでの世界YWCA総会に参加して、アオテアロア/ニュージーランドYWCAは、HIVやAIDSに関して国内での取り組みの先頭に立つと決まりました。「女性、中でも若い女性は、HIV感染に対して脆弱です。なぜなら、男性と対等の立場で安全なセックスを主張することができないからです。特にパートナーから暴力や性的虐待を受けている状況にあると、さらに難しくなります」このように話すのは、アオテアロア/

ニュージーランドYWCAのアリソン・ルーウィン元総幹事です。HIVについて理解を広めるために他のNGOと協力し、「Piss, Politics, Protest」(治療薬・利益・抗議)と題するドキュメンタリー映画の無料上映会を開催しました。「理解を広めることが、HIVやAIDSに関する偏見や差別をなくし、それはHIV感染から身を守る方法を確実に伝える重要な方策です」とルーウィンは述べています。

メキシコ YWCA

自己発見の旅 —感染予防ワークショップ

メキシコのナウカルバンYWCAは、2005年からHIVとAIDSのプログラムに取り組み、女性用および男性用コンドームの普及と活用に関するワークショップを実施しています。そのひとつとして、メキシコ最大の携帯電話会社であるテ

ルメックスの職員にHIV感染予防トレーニングを行っていただきます。

活動が広がり始めた頃、彼女たちは、HIV予防について知らせ教育することは自己発見の旅であると感じ始めました。「私たちは、自分たちの中にある性への恐れを消し、自己自身の成長に取り組まなければなり

(3面に続く)

種

ナザレの村の貧しい家の娘マリヤに天使が現れ、聖霊により母となることを告げた。マリヤは驚くが、知人のエリザベスの所に行き平静をとりもどす。やがてマリヤは「私の霊は救い主である神の名をほめたたえます」と信仰告白をする。婚約者ヨセフはこれを知り心を騒がすが、両親と共に神の働きを信じ、救い主の誕生を待つことになる。住民登録のため2人がエルサレムに向かう途中、ベツレヘムの馬小屋でイエスが誕生してしまう。その時傍らにいたのは貧しい羊飼の男たちだけだった。

ナザレの村の片隅でイエスは信仰のあつた両親によって大工の子として育てられた。この家族には神様のみこころに従うという目標があるだけで、権力も富も持たなかった。周囲は「荒野」であった。

今年もクリスマスが来る。イエスの誕生を祝う楽しい時。誰もが年に1回この季節に「本当の幸せとは？」と自分自身に問いかけてみてはと思いつく。親や教師たちは、子どもたちに、物でもお金でもない、心の幸せがわかるよう、日頃接しているかどうか思いめぐらしてみるのもよい。

奥田道子(東京YWCA会員)

「天使は言った。恐れるな
大きな喜びを告げる」
わたしは民全体に与えられる
(ルカによる福音書2章10節)



2007年7月、記者会見で「ナイロビ2007行動要綱」について話す、プムズレ・ムランボ＝ヌカカ南アフリカ共和国副大統領＝左＝とムシンビ・カニヨロ世界YWCA総幹事(当時)

主要国首脳会議(G8)参加国(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ロシア、イギリス、アメリカ合衆国)の首脳は、2010年までに、抗レトロウイルス治療への普遍的アクセスの実現を公約しました(2005年7月)。

沈黙を破り続けて

ソフィー・ディルミティス
(ジンバブエ)
世界YWCAスタッフ (HIVおよびAIDSコーディネーター)



私は14年間HIVと共に生きていますが、私がそのことを公表するたびに人々はさまざまに反応を示します。啞然とする人、また沈黙し「信じられない」という表情でじっと見つめる人、反射的に憐れみの表情を浮かべる人などさまざまです。HIVと共に生きる人間として正々堂々と意見を述べる度に、私たちはHIVとAIDSを取り巻く沈黙を破り続けています。これは重要なことです。

それでもやはり現実には、HIVと共に生きる女性たちの多くは公表しない方を選択します。多くの場合、公表することは安全ではありませんし、入国に際し特別のビザを取得するために非常に面倒な手続きを要求されることもあり得ます。また入国拒否されることさえあるのです。偏見と差別は、この病の拡大を助長し続けています。人権が尊重され、守られるよう、私たちはさまざまなレベルで変革を実現していかなければなりません。ナイロビ2007行動要綱は、次のことを強調しています。どんな変革もまず個人レベルで起

こるものであり、私たちが自分自身の無知と恐れに立ち向かい、HIVについての考え方を変え、他の人たちにも同様にしようというのです。HIVポジティブの人たちは、より健康的・生産的で長く生きていけるように自分たちの生活に投資しなければなりません。これを現実にするには支援が不可欠です。

この病に打ち勝つためには、コミュニティ・国・大陸そして世界全体が立ち上がり、責任感と強い力で団結し努力することです。自分自身の生活を見つめ、セクシュアリティやHIVについての自分の考えや、誰が危険にさらされているのかを見極めた上で、個人レベルから行動を始めなければなりません。たとえ自分が感染していなくてもHIVは日常生活に存在しており、誰もがHIVと共に生きているということに認識することです。私たちは活動を始めることができ

(2面より続く)
ませんでした。そして、HIVについてだけでなく、セクシュアリティ、女性に対する暴力、自尊心などの問題に対する女性のニーズと疑問に答えられるようになるためには、私たち自身が知識とスキルを磨く必要がありますと認識しました」と、バスケットボール部常任委員は打ち明けています。



メキシコYWCAでは、若者を対象としたワークショップを開き、HIV感染予防のスキルを教え、若い女性をエンパワーしています。

予防プログラムの一つとして、若い女性対象の女性用コンドームのワークショップを、若者が参加しやすくわかりやすい方法で促進しています。「若い女性たちを助ける秘訣は、彼女たちに深く関わって、彼女たちが知識をもてるよう私たちが教育に

55%の若い女性が、コンドームを効果的な予防方法としてあげています。(UNAIDS・国連合同エイズ計画)

女性用コンドームは、唯一女性主導のHIV感染予防の技術にも関わらず、2007年には世界中で2600万個以下の女性用コンドームしか流通しませんでした。(出典：世界YWCA機関紙「コモン・コンサーン」141号)

全力を注ぐことです」「そうすることによって、女性たちは自分たちの健康についてよりよい決定をすることができるようになり、それが最終的に女性の生活を改善することに繋がるのです」と、バスケットボール部常任委員は語っています。

東京YWCA

HIVとAIDSへの取り組み 女性のリーダーシップ+ジェンダーの平等=HIV蔓延防止

2007年7月、世界YWCA総会と同時開催された国際女性サミットでは、表題のような主張が、まるで新しい化学反応式のように強調され、その実践に向け「ナイロビ2007行動要綱」が採択された。参加者としてその場にいた私の中では、帰国後もこのことがずっとこだましていた。同じ女性として、YWCAとして、私たちに何が求められているのか。

HIVやAIDSという言葉は耳にすれど、実際にはまだ距離を感じる人は多いだろう。特に日本では男性とセックスをする男性(MSM)の間でのHIV感染が多く、ジェンダーの平等とHIV蔓延防止の関連性にピンとこない。だが考えてみたい。これまでのセックスの経験で、コンドームを使いたいと相手に主張することに、少しでも抵抗を感じたことはないだろうか。コンドームを買うことを男性まかせにしているだろうか。概して女性は男性に対して、特にセックスという行為において主導権を無意識的に委ねてしまうことが多い。夫・恋人からの暴力(DV)とHIV感染が関連するのは、女性が自分のために決定・選択をする難しさをはらむ社会的構造が、セックスというプライベートな場にまで影響しているからである。個人の強さや弱さではなく、「女性である」がゆえの社会的脆弱性を心にためておかねばならない。

HIVという特別な知識を要求されるよう構えてしまうが、女性への暴力の延長線上にある感染リスク、女性のリプロダクティブヘルス&ライツとの深い関連を考えると、HIVも女性が生きる権利に並列するひとつのトピックであることが見えてくる。これが世界YWCAのとらえ方である。

東京YWCAではその考えを受け、女性団体としてHIVに取り組む必要性を幹部委員会を確認した。この2年間でHIV情報の展示やDVD上映、講座や勉強会、チャリティーライブを実施し、手作りのレッドリボンも配布した。今年度からは、女性と少女の人権事業を設置。女性のいのちや人権という広い視野をもち、主に啓発事業を進めていく。その過程で若い女性を取り込む方法も検討している。生まれわたの企画にありがたくも企業から助成金をもらい、2010年夏にはHIVとDVに対する啓発Tシャツのデザインを、若い女性から公募する「Tシャツデザインコンテスト」を実施予定。「意味のあるTシャツ」を通して女性のエンパワメントにつながる効果も期待したい。

YWCAは女性のエンパワメントに長年取り組んでいる。そのひとつとしてHIVを取り上げてみることで、全国運動につながる広がりが見えることを期待し、今後の展開を考えていきたい。

東京YWCA職員 金子まりな



For every girl

すべての女の子が、大きくなって次のことができる世界でありますように。

- ・質の高い教育が受けられる
- ・適切な性教育が受けられる(適切な性教育=自分の性に責任が持てるために絶対必要でとても大切な、生きる知恵・知識を伝えてくれるような教育)
- ・HIVにはどのように感染するのか、またどうしたら感染しないのかを知る
- ・受けたいと思ったときにいつでも、他人に知られることなく、カウンセリングやHIV検査を受けられ、自分がHIVに感染しているかどうか知ることができる
- ・HIVに感染していた場合、一番効果的で一番良い治療が受けられ、自分が感染していることを教える相手を自由に決められる
- ・コンドームの使用について相手と話し合うスキルがあり、低価格の女性用・男性用コンドームを入手できる
- ・望まない妊娠をどうしたら避けられるかについて知り、自分の必要に応じた避妊法が得られる
- ・結婚する時期や相手を自由に選べる
- ・HIVに感染しているかどうかに関わらず、子どもをもつ時期や子どもをもつもたないことを自由に決められる
- ・成長して十分子どもをもてるようになった時に、安心・安全な出産を介助してくれるような保健・医療施設が利用できる
- ・子宮頸がんや乳がんの定期的な検診と治療が受けられる (訳・西文字)

(出典 世界YWCA機関紙「コモン・コンサーン」141号)

www.worldywca.org



平塚YWCA 60周年記念講演会

平塚YWCAは1949年創立により60年の歩みを経て、この度記念行事を行いました。10月6日の午前中に感謝礼拝と祝会を持ち、午後からは場所を駅ビルのラスカホールに移して講演会を開き130人ほどの方々が集まりました。講師はシエークスピア研究の第一人者の小田島雄志さんを迎えて「シエークスピアの人間性」について語っていただきました。

例をあげて話して下さいました。

- 1 「どんな荒れ狂う嵐の日にも時はたつのだ」(マクベス) : 人には山あり谷あり。「これがどん底」などと言えるあいだは本当のどん底ではない。(リア王)
- 2 「人はほほえみ、ほほえみ、しかも悪党たりうる。」(ハムレット) : みせかけにとらわれていると見えないことがある。
- 3 「王様だってスマイレの花はおれと同じように匂うだろう。」(ヘンリー5世) : 人間はみな平等。
- 4 「宴会へは真先かけて、戦場へはいちばんあとから行く」



(ヘンリー4世) : ...これが人間の本音。
5 「目はおのれを見ることはできぬ。何か他のものに映してはじめて見えるのだ」(ジュリアス・シーザー) : 周囲の人間の自分に対する態度
思いこみや常識を取り除いてみると、今まで見えなかったものが見えてくるのが、以上の台詞に表されているのではないのでしょうか。

本の紹介

崔善愛著
影書房
税込2100円

本 の 紹 介



「素晴らしい音楽家には、思想がある。たとえば『ショパン』。指紋捺捺を拒否し日本再入国不許可となった時、在日朝鮮人の父はわたしにそう言った。『日韓併合』という侵略によって国を奪われた朝鮮。そして在日朝鮮人の奪われた民族性を取り戻したいと行動し続ける父。そんな中わたしは『ショパン』の手紙と出会う。二度と戻れないかもしれない、と『ZAL』という言葉で悲しみの本質を表現した『ショパン』。この悲しみは国を奪われた悲しみであり、父の悲しみでもあった。『ショパン』のうたが自分の悲しみのように響くとき人と人は分かちあうことができる。祈りと情熱の1冊です。

(編集委員 木村真理子)

「協力ありがとうございました」
賛助費(以下敬称略)

- 小川 碧 設楽順子 西谷さやか
- 乾 康子 鈴木信子 大野美知子
- 井田すみ 松田和子 大野綾子
- オリーブの木暮金
- 平出 光 平出和子 富岡美知子
- 木部由美
- 福岡女学院中高YWCA
- 福岡YWCA
- アジア太平洋地域被災者救済基金
- 大野綾子 江尻美穂子
- 甲府YWCA

一般寄付
唐崎旬代 鹿野幸枝 横山由美子

(2009年10月20日現在)

松山 YWCA

カウンセリングルーム 'Ground You' オープン

松山YWCAは、今年4月にカウンセリングルーム「Ground You」をスタートしました。「カウンセリング」という言葉を日常頻りに耳にするようになって久しくなります。そして今、カウンセリングブームとなり、社会のさまざまな場面に浸透してきているように思います。ただそれに伴って、カウンセリングへの理解や認識が深まっているかと問われると、一概に答えは見出せないという専門家の意見もありません。しかし、目まぐるしく多様化している社会や家庭生活の実情が背景にある「ブーム」という型での広がりによって、ごく自然に生活の中に、カウンセリングの良き場を提供する、という本来のあり方が示され、カウンセリングの扉が広く開かれたように思えます。

病む人のみが戸を叩くというイメージのカウンセリングルームから、日頃より自分の心をケアするための、☆予防☆カウンセリングルームへと装いを新たにしてみました！ その思いが、今年4月にスタートさせたカウンセリングルーム「Ground You」に込められています。理論や机上の学びに眼を向ける以上に大切なことは、自分を知る喜びと自分の存在の意味に気づく喜びに出会うことだということとを伝えていきたいと思えます。

8月より4回シリーズで開催したカウンセリングルームのオープニングイベント「なるほど！気づきのワーク」は、体験学習を通して参加者それぞれが互いの関係性を作り出し、自身自身の心を整え、見つめなおす時を分かちあうことができ、さやかな清々しさと手応えを感じました。

まだ歩み始めたばかりですが、「Preventive Counseling」(予防カウンセリング)の場として、また、一人ひとりに合ったカウンセリングを見つけて「Coordinative Counseling」(一人ひとりに合ったカウンセリング)の役割を担う場としてYWCAならではのカウンセリングルームを模索しながら、「Ground You」を育てていきたいと願っています。

松山YWCA 伊藤浩美